

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	NPO及び市民活動団体の経営強化支援事業
分類	<input type="checkbox"/> 一般枠 <input checked="" type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施主体名	国立市 くにたちNPO活動支援室運営協議会
実施期間	平成24年5月8日～平成25年3月31日
支援額	5,355,000円 人件費:1,701,000円 諸謝金:795,000円 印刷製本費:917,000円 使用料・会場費:1,723,240円 通信費:120,000円 交通費:50,000円 消耗品:48,760円
マルチステークホルダー(協議体)の取組状況	くにたちNPO活動支援室運営協議会:モデル事業実施の中心的コーディネーター。 NPO法人いきいき市民協働ネット:事業(講演会、IT講座)の実施主体として活動。 国立市生活環境部市民協働推進課:地域住民や東京都との橋渡し、調整役。 学校法人日本放送協会(NHK)学園:講演会講師の候補選定に尽力。 社団法人立川法人会(国立4支部):寄付と税に親しむ講座の講師を担当。
事業概要	社会を支えるNPOの経営強化に向け、①国立市民に寄付文化のファンを増やすための講演会、②高齢者にタブレットでNPOへの理解や社会との絆を深め、納税や寄付にも活用してもらうための講習会、を2本の柱とした啓発活動事業を実施した。
事業内容	① 講演会は国立駅前のさくらホールで5回開催、来聴者は計170名と予定を超えた。 第1回2012年8月5日「キャッチボールで世界を平和に」 講師:小須田 良氏 認定NPO法人アフリカ野球友の会 事務局長 第2回2012年9月2日「ともに生きる—寄付文化が支える被災地支援—」 講師:椎名 規之氏 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム事務局長 第3回2012年10月7日「ドラッカーの本当の教え～コミュニティからNPOへ～」 講師:田中 弥生氏 日本NPO学会会長 第4回2012年11月23日「もしも寄付があったら、かなえたい国立の夢」 講師:徳田 太郎氏 日本ファシリテーション協会フェロー 第5回2013年2月23日「寄付が変わる!私たちの未来」 講師:江崎礼子氏 茨城NPOセンター・commons理事、(株)ソノリテ代表 ②講習会は市内3か所の会場で1コース8時間、全19コース開催し延べ171名が受講した。応募総数は延べ675名と大きな関心呼び、抽選で受講者を決定するという盛況だった。高齢者層(女性が多い)に関心が高いことが判明した。 ③広報活動は以下のように5回の講演会ごとに積極展開した。 ・チラシ3000枚・ポスター50枚:市内掲示板ほか公共施設、市内店舗など ・国立市市報(発行数50,000部)、国立市HP、くにたちNPO活動支援室HP ・くにたちインデックス(国立市観光まちづくり協会ポータルサイト) ・地域情報誌『国立歩記』ほか各地域ブログ、立川経済新聞、Facebook、twitter

	<p>・朝日新聞多摩地域タブロイド版「asacoco」など</p> <p>④以上の実施に当たっては協議体構成団体のメンバーが適材適所で分担、マルチステークホルダー協働の成果を挙げた。</p> <p>⑤市内所在の43あるNPO団体はすべて認定未取得。数団体で仮認定/認定取得申請作業を進めたが資格上の不備で申請し直しや主宰者の死去等障害が生じ取得に至るまでの進捗はなかった。</p>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>①支援の成果：心ある市民はNPOの経営強化支援事業に賛同し、寄付にも参加意欲の高いことが検証でき、今後の前進への希望が大きく膨らんだ。</p> <p>②波及効果：寄付文化の醸成とタブレット講習という組み合わせは一見唐突で関連が薄い感があるが、実際には二つとも社会参加、社会貢献に積極的な高齢者層の関心が深いテーマであることがわかった。このことは今後類似の事業を進める自治体や団体等に参考となるものと思う。</p> <p>③今後の展望：さらに寄付文化の定着に努めるとともに寄付環境の整備（受入れ団体の認定取得実現、団体情報の整備・公開、寄付金の募集目的や使途の発信・透明化など）やファンドレイジング立ち上げ検討などを進める。市役所内に寄付受け入れ窓口を設ける案も今後条例の制定も含めて検討する。コミュニティ・ファンド立ち上げの機運も高まりつつある。協議会の活動についても次年度以降の事業と協議会のあり方、体制についての検討に入った。</p> <p>タブレット講習会に関しては既に市内から講習の依頼や、横浜市の地区センターからも講座概要についての問い合わせが入っている。タブレット講習については多数の継続希望があったので講習継続の体制作りを早急に検討する。</p> <p>④その他のアウトカム</p> <p>この事業をきっかけに、まちづくり、子育て・育ち、高齢者・しょうがいしゃ生活支援など地域の課題の解決に向けた、協議体やNPO等の活動内容の拡大が期待されていることがわかった。今後積極的に取り組みたい。</p> <p>⑤自己評価</p> <p>【目標】</p> <p>① 内43団体のNPO法人の8%(3団体)が認定を取得する。</p> <p>② 講演会参加者延べ150名、講座参加者延べ800名、計およそ千人近くの市民がNPO等への理解・共感を増し、寄付と税への理解が深まり、寄付文化醸成に加わる。</p> <p>【成果】</p> <p>① 認定取得したNPO法人の数</p> <p>1団体が仮認定申請したが内容不十分で取り下げた。何れの法人もNPO会計、定款を見直すところから指導を受ける必要性を痛感。</p> <p>② 演会来場者171名、講座受講希望者675名計846名が事業目的に賛同。</p> <p>③ アンケート調査は7割の回収率で、回答者の約7割に寄付に積極的に参加する意思が確認できた。1年間の事業としては、よく成果が上がったと評価している。</p>
<p>評価ラ ンク</p>	<p><input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった</p> <p>(該当する評価にレを付けてください。)</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。